

「シビアアクシデント時の格納容器内の現実的ソースターム評価」特別専門委員会
平成21年度第3回会合議事録

1. 日時 平成21年12月14日（月） 13:40～16:30

2. 場所 原子力安全基盤機構 TOKYU REIT 虎ノ門ビル9階 第9A-9C会議室

3. 議題

- (1) 前回議事録の確認
- (2) 報告書の内容（質疑を反映した改訂版）：第4章 ヨウ素挙動の解明
- (3) 配管内エアロゾル挙動試験
- (4) MELCOR コードによる PHEBUS-FP 試験の解析
- (5) その他

4. 出席者

神永委員（茨城大学）、片岡委員（大阪大学）、菊地委員（広島大学）、石川委員（JAEA）
大野委員（JAEA）、西野委員（東京電力）、藤井委員（関西電力）、山本委員（三菱重工）
秋永委員（東芝）、田原委員（東芝）、西村委員（日立 GE）、西村委員（電中研）
吉田委員（INSS）、廣川委員（テプシス）、中川委員（東芝プラントシステム）
氷見委員（日本システム）
丸山委員（JAEA）、濱崎委員（東芝）、武智委員（三菱重工）
松本、渡部、中村、荻野、長坂、川部、成合（以上 JNES）

5. 配布資料

- 資料：21-3-0 「シビアアクシデント時の格納容器内の現実的ソースターム評価」
特別専門委員会 平成21年度第3回会合 議事次第
- 資料：21-3-1 第2回会合議事録
- 資料：21-3-2 4. ヨウ素挙動の解明 4.1 格納容器ヨウ素挙動試験 4.2.1 Kiche コード
によるヨウ素挙動解析
- 資料：21-3-3 配管内エアロゾル挙動試験
- 資料：21-3-4 MELCOR コードによる PHEBUS-FP 試験の解析
- 資料：21-3-5 最終報告書の作成スケジュールとコメント記入書式
- 資料：21-3-6 最終報告書ドラフト

6.議事内容

(1) 前回議事録の確認（川部幹事）

資料 21-3-1 を用いて前回議事録案を紹介。今回会議の案内状と併せて、既にメールにて送付済みであり特にコメントは無く、議事録は承認された。

(2) 報告書の内容（質疑を反映した改訂版）：第4章 ヨウ素挙動の解明（丸山委員）

最終報告書の第4章 4.1 節及び 4.2.1 項の内容予定について資料:21-3-2 及び OHP を用いて説明した。4.1 節ではガス状ヨウ素放出試験の目的・試験条件の検討・試験結果等について述べ、4.2.1 項では、格納容器内ヨウ素化学モデルの検討・SA 解析コードとヨウ素化学モデルの連携による実機解析について記述する。

(3) 配管内エアロゾル挙動試験（丸山委員）

資料 21-3-3 を用いて、JAEA が WIND 計画の中で実施した配管内エアロゾル挙動試験について報告があった。この試験はシビアアクシデント時の CsI の化学的安定性に及ぼすホウ酸及び空気進入の影響に係わる試験データベースを取得しようとしたものであり、CsI の分解がホウ酸の存在及び酸素ポテンシャルに強く依存することを明らかにした。

(4) MELCOR コードによる PHEBUS-FP 試験の解析（氷見委員）

資料 21-3-4 を用いて、MELCOR コードによる PHEBUS FP 試験の解析結果について報告があった。流体温度、燃料温度、水素発生量 FP 放出・移行量などを試験結果と比較し、炉心損傷状態、FP 放出挙動、FP 移行・沈着挙動をおおよそ再現できた。

(5) その他

資料：21-3-5 を用いて、最終報告書の作成に向けてのスケジュールの紹介があった。報告書印刷のため 2 月末までに原稿を完成させる必要がある。また、執筆された報告書原稿に対する委員による査読・コメントの依頼とコメント記入要領の説明があった。

次回会合予定は 2 月中旬とする。

以上